

2022年8月11日現在

第8回アジア栄養士会議  
開催趣意書



**ACD2022**

主催：第8回アジア栄養士会議組織委員会

## ご挨拶

第8回アジア栄養会議組織委員会委員長 中村 丁次

みんなで、横浜に集まり、栄養と食のイノベーションを起こしましょう。

著しい経済発展とグローバル化により、アジアの人々の食事は、大きく変化しつつあります。この変化は、貧困による栄養不足が未解決のまま、富裕層に過栄養が出現する栄養不良の二重負荷が起きています。

地域格差、伝統的食文化の崩壊、栄養や食事の情報の氾濫、未知なる感染症によるパンデミック、さらに地球環境の崩壊などが生じ、栄養問題は増々複雑化しています。

もはや栄養問題は一国では解決することが難しく、アジアの国々が連携、協力することが必要になっています。未来のアジアの人々のために、横浜に集まり、栄養と食のイノベーションを起こしましょう。

## 会議テーマ

---

Realizing a sustainable healthy society for a bright future in Asia.

— Responding to modern problems and confusion in nutrition information —

アジアの明るい未来のために持続可能な健康社会の実現を目指して

— 現代の問題解決と混乱する栄養情報への対応 —

第8回アジア栄養士会議では、栄養と食事の分野において、だれも取り残すことなく持続可能な健康社会の実現を目指して、幅広い内容をそろえたプログラムを提供します。

### 持続可能な健康社会の実現を目指して

会議の目的は、アジアの明るい未来のために持続可能な健康社会の実現を目指して、混乱する栄養情報への管理栄養士・栄養士の対応と現代の栄養問題の解決のために、新しい解決方法を探ることです。

従来、「どれだけの原材料からどれだけの製品を作るか」という狭い範囲での効率に囚われてきました。しかしこれからは、見えにくいつながりをたどって全体像をとらえ、持続可能な健康社会の実現を目指して、だれもが「幸せ」であるためにはどうしたらよいかを考えた総合的な取り組みが必要です。

### 混乱する栄養情報と現代の栄養問題解決のために

膨大な栄養情報が発信され、「自分にとって、何が正しくて、何が正しくないか」、人々は混乱しています。管理栄養士・栄養士には、科学的根拠に基づいて、栄養・食の分野の膨大な科学的データを評価・判定し、その結果をわかりやすく人々に説明することが求められています。

食べ過ぎによるメタボリックシンドロームが増大する一方で若年女子を中心にやせや貧血が、さらに、傷病者や高齢者に新たな低栄養障害が増加しつつあります。「栄養不良の二重負荷 (Double burden of malnutrition)」です。高齢社会では、人々の生活の営みやその環境、背景にある食文化を視野に入れ、それぞれの国や地域の特徴を生かした問題の解決が必要です。このような活動を健康寿命の延伸につなげて、持続可能な健康社会の実現を目指していこうではありませんか。

### 視野は広く科学的根拠に基づいて

会議の目標は、管理栄養士・栄養士活動のあらゆる面で、科学的根拠に基づいた技術や知識の討論とその普及、高度な技術の標準化とその実践、現代の栄養問題の発見とそれへの挑戦、また参加者の豊かな経験の共有化と国際交流の推進にあります。

## 開催概要

### 1. 会議の名称

和文名：第8回アジア栄養士会議

英文名：The 8th Asian Congress of Dietetics（略称：ACD2022）

### 2. 主催

第8回アジア栄養士会議組織委員会

公益社団法人日本栄養士会

### 3. 共催

アジア栄養士連盟（Asian Federation of Dietetic Associations ; AFDA）

### 4. 後援

厚生労働省、外務省、農林水産省、消費者庁、内閣府食品安全委員会、神奈川県、横浜市、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本歯科医師会、公益社団法人日本薬剤師会、公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本理学療法士協会、公益社団法人日本作業療法士協会、一般社団法人日本言語聴覚士協会、一般社団法人日本病院会

公益財団法人健康・体力づくり事業財団、公益財団法人骨粗鬆症財団、公益財団法人児童育成協会、公益財団法人食品等流通合理化促進機構、公益社団法人精神科病院協会、公益財団法人母子衛生研究会、日本リザルト、一般社団法人全国栄養士養成施設協会、公益社団法人全国学校栄養士協議会、社会福祉法人全国社会福祉協議会、一般社団法人全国精神科栄養士協会、公益社団法人全国老人福祉施設協会、公益社団法人全国老人保健施設協会、公益社団法人全日本病院協会、一般財団法人日本食生活協会、公益社団法人日本食品衛生協会、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本知的障害者福祉協会、公益社団法人日本認知症グループホーム協会、一般社団法人日本アレルギー学会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、一般社団法人日本栄養学教育学会、公益社団法人日本栄養・食糧学会、一般社団法人日本癌学会、一般社団法人日本給食経営管理学会、一般社団法人日本健康・栄養システム学会、特定非営利活動法人日本高血圧学会、一般社団法人日本骨粗鬆症学会、一般社団法人日本在宅栄養管理学会、一般社団法人日本サルコペニア・フレイル学会、一般社団法人日本循環器学会、一般社団法人日本小児アレルギー学会、一般社団法人日本小児臨床アレルギー学会、一般社団法人日本食育学会、一般社団法人日本腎臓学会、特定非営利活動法人日本スポーツ栄養学会、一般社団法人日本摂食嚥下リハビリテーション学会、一般社団法人日本透析医学会、一般社団法人日本糖尿病学会、一般社団法人日本動脈硬化学会、一般社団法人日本病態栄養学会、一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会、一般社団法人日本臨床栄養学会、一般社団法人日本臨床栄養代謝学会、一般社団法人日本老年医学会（順不同）

## 5. 協 力

47 都道府県栄養士会

## 6. 開催期間

2022 年 8 月 19 日（金）～21 日（日） 3 日間

## 7. 開催場所

パシフィコ横浜 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1

## 8. 大会の母体機関

本大会の母体はアジア地域の各国栄養士会により組織されるアジア栄養士連盟です。アジア栄養士連盟は、アジアの人々の栄養の向上を進めることを目的とし 1991 年に設立されました。加盟国は、台湾、香港、日本、マレーシア、パキスタン、インド、フィリピン、インドネシア、タイ、韓国、シンガポール、オーストラリアの 12 カ国（2021 年 4 月現在）です。

日本は、2010 年から常任理事国を務め、2018 年から 2022 年までの常任理事国は、香港（会長）、日本（副会長）、マレーシア、パキスタン、台湾、インド、フィリピン、インドネシアの 8 カ国です。

アジア栄養士連盟は、4 年に 1 回、アジアの人々の食事に立脚したアジア人のための栄養のあり方と実践活動の検討を目的とする、アジア栄養士会議を開催しています。

## 9. 日本開催にいたる経緯と意義

### (1) アジア栄養士会議開催に至る経緯

国際栄養士会議は、世界各国の栄養士及び栄養学者が互いに知り合い、最新の話題・情報を交換し、議論することにより交流を深めることを大きな目的とした学术交流の場です。これに対応して、アジア人の食生活と栄養の問題を議論する会議として、アジア栄養士会議は次のような経緯で開催されてきました。

1988 年、韓国・ソウルで開催された第 14 回国際栄養学会議（International Congress of Nutrition ; ICN）の際に、台湾、シンガポール、香港、韓国の各栄養士会の代表が集まり、その必要性を確認したことに始まります。その時、中心的役割を果たした台湾栄養士会の Chwang Lehchii 会長が、1989 年、日本栄養士会への協力要請のために来日しました。1990 年に台湾栄養士会主催により開催された米食栄養アジアシンポジウムにおいて、アジア栄養士会の連合体を作るためのネットワークづくりが検討されました。

1991 年に、シンガポールで開催された第 6 回アジア栄養学会議（Asian Congress of Nutrition ; ACN）の際に準備委員会が開催され、Asian Forum of Dietetic Professionals（AFDP）を正式に設立することが、香港、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、日本により承認されました。そして、第 1 回アジア栄養士会議を 1994 年にインドネシアで開催することが決定されました。

1994年に開催された第1回アジア栄養士会議における運営会議で、連合体の正式名称を①Asian Federation of Dietetic Associations (AFDA、アジア栄養士連盟) とすること、②4年毎にAsian Congress of Dietetics (ACD、アジア食科学会議、現在のアジア栄養士会議) を開催すること等が決められました。

#### 【アジア栄養士会議開催状況】

- 第1回 1994年 インドネシア (ジャカルタ)
- 第2回 1998年 韓国 (ソウル)
- 第3回 2002年 マレーシア (クアラルンプール)
- 第4回 2006年 フィリピン (マニラ)
- 第5回 2010年 タイ (バンコク)
- 第6回 2014年 台湾 (台北)
- 第7回 2018年 香港 (香港)
- 第8回 2022年 日本 (横浜)

## (2) 日本開催の意義

2008年9月に横浜市において、第15回国際栄養士会議 (The 15th International Congress of Dietetics ; ICD2008) が開催されました。栄養問題の焦点が、食料不足による栄養欠乏から、過剰栄養による肥満問題に移り、食品のグローバル化や安全性も問題になりつつある時でした。日本は、比較的短期間に戦後の低栄養を解決し、非感染性疾患の問題にも取り組み、長寿国として認められ始めたところで、日本の栄養の取組みが注目されました。

現在、アジアにおいては、開発が遅れている国には依然として、飢餓や食料不足が存在し、急速な経済成長を遂げる国々では、食料増産を目的に自然破壊が進み、経済格差が生じて貧困層には低栄養が残存する中、富裕層には過栄養、肥満、さらに非感染性疾患が急速に増大しつつあります。COVID-19では、低栄養により発症率が増大し、過栄養により増悪化のリスクが高くなることが解ってきました。

日本は、約150年前、アジアにおいて最も早く国家の近代化を図り、栄養政策に積極的に取り組み、栄養や食事に関する種々の問題を解決してきました。2021年12月には「東京栄養サミット 2021」が開催されます。この様な経験を持つ日本に、アジアの栄養関係者が一堂に集い、SDGsや栄養不良の撲滅など、国際的な課題にも思いを馳せながら、アジアの人々の健康と幸せを願い、議論することに今回の「ACD2022」の意義があります。

## 10. 会議計画の概要

### (1) 会議の構成

セッション：特別講演、基調講演、教育講演、シンポジウム、ポスター発表（デジタルポスター）、ランチョンセミナー

会議：AFDA 理事会、AFDA 代表者会議

その他：展示会

### (2) テーマ

Realizing a sustainable healthy society for a bright future in Asia

— Responding to modern problems and confusion in nutrition information —

アジアの明るい未来のために持続可能な健康社会の実現を目指して

— 現代の問題解決と混乱する栄養情報への対応 —

### (3) 日程表

会議日程	午前	午後	夕方
8月19日 (金)	開会式・表彰式 特別講演 基調講演	シンポジウム 教育講演 ランチョンセミナー ポスター発表 AFDA 常任理事会	AFDA 代表者ディナー
8月20日 (土)	教育講演 シンポジウム	教育講演 シンポジウム ランチョンセミナー ポスター発表 AFDA 総会 AFDA 新常任理事会	
8月21日 (日)	教育講演 基調講演 閉会式	—	—

### (4) 使用言語

英語

### (5) 参加予定国・地域

AFDA 加盟国：台湾、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、  
フィリピン、パキスタン、シンガポール、タイ、オーストラリア

他：アメリカ、カナダ、中国、ベトナム等

### (6) 参加予定者数（概数）

管理栄養士・栄養士 1,500 名

## (7) 学術展示

会期中、パシフィコ横浜展示ホール D で開催する。

## (8) 参加登録費

一般（会員）	:	早期	22,000 円、	発表者	27,500 円、	後期	22,000 円、	当日	44,000 円
一般（非会員）	:	早期	44,000 円、	発表者	49,500 円、	後期	55,000 円、	当日	66,000 円
1日登録（会員）	:	事前	22,000 円、	当日	27,500 円				
1日登録（非会員）	:	事前	27,500 円、	当日	33,000 円				
学生	:	事前および当日	11,000 円、	発表者	16,500 円				

## (9) 参加登録期間

事前早期登録：2022 年 4 月 4 日～2022 年 6 月 30 日

事前後期登録：2022 年 7 月 1 日～2022 年 7 月 31 日



## 第8回アジア栄養士会議 組織委員会

### 常任委員会

組織委員会委員長	中村 丁次	神奈川県立保健福祉大学
組織委員会副委員長	鈴木 志保子	神奈川県立保健福祉大学
組織委員会副委員長	斎藤 トシ子	新潟大学大学院医歯学総合研究科
委員	木戸 康博	甲南女子大学
委員	武見 ゆかり	女子栄養大学
委員	岡本 智子	札幌保健医療大学
委員	下浦 佳之	公益社団法人日本栄養士会
委員	阿部 絹子	公益社団法人日本栄養士会

### 執行委員会

委員長	木戸 康博	甲南女子大学
委員 (総務部長)	塚田 定信	
委員 (プログラム編成部長)	斎藤 トシ子	新潟大学大学院医歯学総合研究科
委員 (募金部長)	鈴木 志保子	神奈川県立保健福祉大学
委員 (財務部長)	柵木 嘉和	名古屋文理栄養士専門学校
委員 (広報・渉外部長)	武見 ゆかり	女子栄養大学
委員	岡本 智子	札幌保健医療大学
委員	下浦 佳之	公益社団法人日本栄養士会
委員	田中 弥生	関東学院大学
委員	三好 美紀	青森県立保健大学

## 第8回アジア栄養士会議 専門部

### <総務部>

部長	塚田 定信	
副部長	神戸 絹代	東海学園大学
委員	大山 珠美	桐生大学
委員	小切間美保	同志社女子大学
委員	高橋 東生	東洋大学
委員	外川 泉	富士吉田市学校給食センター
委員	中谷 弥栄子	湘南医療大学
委員	西宮 弘之	公益社団法人神奈川県栄養士会
委員	花山 佳子	大阪公立大学医学部附属病院
委員	藤倉 純子	女子栄養大学
委員	吉本 優子	京都府立大学大学院

### <プログラム編成部>

部長	斎藤 トシ子	新潟大学大学院医歯学総合研究科
副部長	三好 美紀	青森県立保健大学
委員	阿部 絹子	公益社団法人日本栄養士会
委員	新井 英一	静岡県立大学
委員	石川 みどり	国立保健医療科学院
委員	市 育代	お茶の水女子大学
委員	海老原昌子	千葉県厚生農業協同組合連合会
委員	笠岡 宜代	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
委員	加藤 すみ子	NPO 法人 布紗
委員	木村 典代	高崎健康福祉大学
委員	串田 修	静岡県立大学
委員	楠本 健二	山形大学
委員	倉貫 早智	神奈川県立保健福祉大学
委員	國分 葉子	エームサービス株式会社
委員	佐藤 晶子	新潟医療福祉大学
委員	白神 俊幸	長野県立大学
委員	中田 智子	栃木市大平学校給食センター
委員	原 純也	武蔵野赤十字病院
委員	由田 克士	大阪市立大学大学院
委員	新保 みさ	長野県立大学

### <募金部>

部長	鈴木	志保子	神奈川県立保健福祉大学
副部長	田中	弥生	関東学院大学
委員	西村	一弘	公益社団法人東京都栄養士会
委員	松村	晃子	徳島市民病院
委員	渡邊	潤	浜松医科大学医学部附属病院

### <財務部>

部長	柵木	嘉和	名古屋文理栄養士専門学校
副部長	塚原	丘美	名古屋学芸大学
委員	朝見	祐也	龍谷大学
委員	川上	由香	静岡県立大学
委員	北森	一哉	金城学院大学
委員	長幡	友実	京都府立大学

### <広報・渉外部>

部長	武見	ゆかり	女子栄養大学
副部長	吉岡	有紀子	相模女子大学
委員	五味	郁子	神奈川県立保健福祉大学
委員	杉浦	令子	和洋女子大学
委員	堀	理佐	新渡戸文化短期大学
委員	渡邊	啓子	中村学園大学
委員	保瀬	由江	相模女子大学
委員	齋藤	沙織	山梨学院大学

### <名誉顧問・顧問>

名誉顧問	津金	昌一郎	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 所長
名誉顧問	滝川	嘉彦	一般社団法人全国栄養士養成施設協会 会長
顧問	三浦	公嗣	公益社団法人日本栄養士会 顧問
顧問	山本	茂	十文字学園女子大学大学院 教授、ハノイ医科大学 名誉教授
顧問	小松	龍史	前公益社団法人日本栄養士 会長

## 第8回アジア栄養士会議 事務局

事務局長            岡本 智子        札幌保健医療大学

業務委託：株式会社 JTB コミュニケーションデザイン

### ■ お問い合わせ先：

第8回アジア栄養士会議（ACD2022）運営事務局

株式会社 JTB コミュニケーションデザイン内

〒105-8335 東京都港区芝 3-23-1 セレスティン芝三井ビルディング

E-mail: [acd2022@jtbc.com](mailto:acd2022@jtbc.com).jp